教科	科目	単位数	対象学年
国語	国語総合・現代文Ｂ	２・１	４年

１．学習の到達目標等

到達目標	①　語彙・用語など国語学習の基礎知識を身につける。 ②　説明的文章の読解を通して論理的思考を身につける。 ③　文学的文章の読解を通して人間の真実に目を向ける。 ④　短詩形文学の表現世界を味わう。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることを基本とし、必要な物を準備し、主体的に授業に参加する姿勢を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、またグループ学習において、他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることが出来る力を身につける。ノートは板書や教師の説明等を、丁寧な字で確実に書くようにし、復習時に要点が理解できるものを作る。 家庭学習において、授業時に出された課題等に丁寧に取り組み、復習をする習慣を身につける
使用教科書	『精選　国語総合』（筑摩書房）
使用副教材	『増補版　応用現代文』（尚文出版）　『力をつける古文ステップ２』（数研出版） 『即戦ゼミ　新国語問題総演習』（桐原書店）　『力をつける漢文習得編』（数研出版） 『新国語便覧』（第一学習社）　『入試対策ベストセレクション３２５』（尚文出版）
評価基準	小テスト及び中間・期末テスト・提出物・授業態度などを総合的に判断して評価する。
学習内容	言語知識　・現代文・古文・漢文に関する基礎知識（漢字の読み書き・語彙・用語・口語文法・文語文法）の確実な理解・運用の確認をする。 論説文・評論文 ・論理的文章の読解を通して、社会科学・人文科学・自然科学における知識の吸収と思考のあり方を学習する。 ・全体の論展開を把握し、文章の要旨、筆者の主張を読み解くことを学習する・ ・自分の意見、考えを論理的に表現することを学習する・ 詩歌・文学的文章 ・文学的文章の読解を通して、時代背景・思想・心情理解につなげる。 ・短詩形文学の学習を通して、修辞技法を契機としながら独特の表現世界の理解につなげる。

２．指導計画

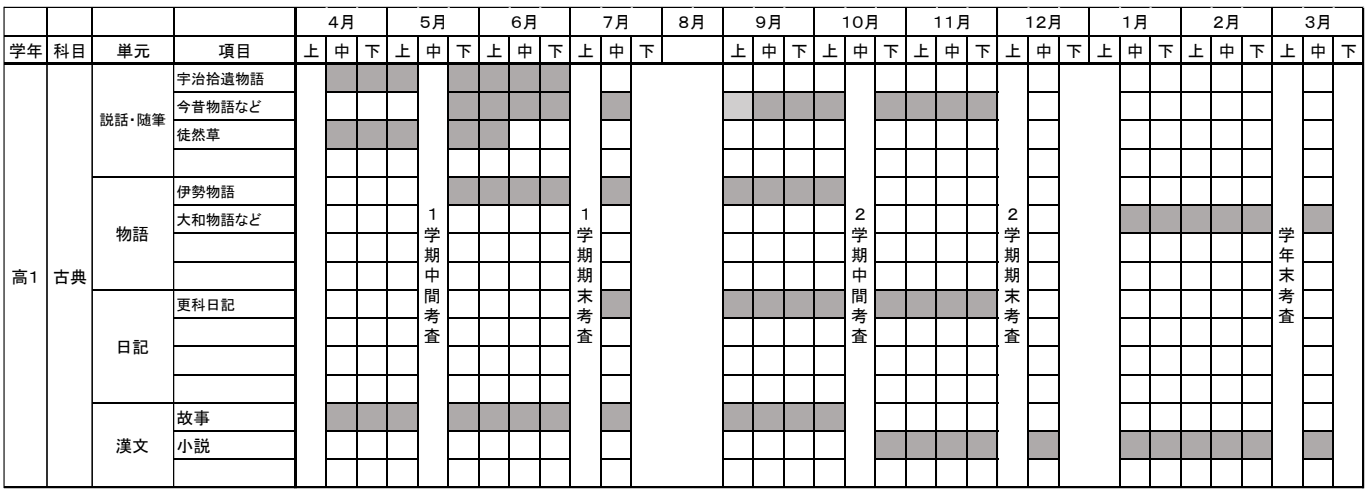
				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
高1	国語総合	評論	「結ばれていく時間」等					1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		小説	「羅生門」等																																	
		随想	「となり町の山車のように」等																																	
		評論	「エクソフォニー」等																																	
		小説	「待ち伏せ」等																																	
		評論	「ものさしの恍惚と不安」等																																	
		詩歌・文学的文章	「二十億光年の孤独」等																																	
		評論	「感性の考古学」等																																	
		小説	「急須」など																																	
		評論	「マルージャの知恵」等																																	
		物語	「竹取物語」等																																	
		日記	「土佐日記」等																																	
		随筆	「徒然草」等																																	
		言語知識	漢字・文語文法・語彙等																																	

教科	科目	単位数	対象学年
国語	古典Ｂ	２	４年

１．学習の到達目標等

到達目標	古文・漢文の読解が出来るようになり、古典の世界に興味を持つことが出来る。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることが基本という意識を持たせる。授業は説明を注意深く聞き、受け身ではなく主体的に取り組ませるよう工夫をする。家庭学習を習慣付けるためにも、授業の復習などの課題を適切に指示するよう心がける。
使用教科書	『古典Ｂ　古文編』　『古典Ｂ　漢文編』　（筑摩書房）
使用副教材	『やさしくくわしい古典文法』（尚文出版） 『力をつける古文ステップ２』（尚文出版） 『入試対策ﾍﾞｽﾄｾﾚｸｼｮﾝ古文単語３２５』（尚文出版） 『新明説漢文』（尚文出版） 『力をつける漢文習得編』（尚文出版）　　自主教材
評価基準	小テスト・定期考査・課題提出・出欠状況などから総合的に評価する
学習内容	・古典単語の習得 ・古典文法の習得 ・古文（主に説話）の読解 ○中等部で学習した文法、語句の知識の定着を確認しながら文章を読解する時間、量を徐々に増やしていく。 漢文の基本構造 漢文訓読の基本 句形・句法の習得 ○中等部で学習した訓読方法に加え、必要な句形（再読文字・使役・受身など）の基本を身に付ける。

２．指導計画



教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学Ⅰ＋数学Ⅱ	4（3＋1）	4年生

1．学習の到達目標等

到達目標	下記学習内容を理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に， ・「図形の計量」の内容を習熟させるとともに，既習事項を空間図形の様々な計量に適所で利用できるようにする。 ・統計の基本的な考えを理解するとともに、データを整理・分析して傾向を把握できるようにする。 ・「数学Ⅰ　数と式」の内容を発展させ，より高度な数式処理技能を習熟させる。 ・図形を方程式で表し，その性質を調べる方法を学ぶことにより，数学の多様性とよさを理解させる。 ・三角関数，指数関数，対数関数などさまざまな関数の存在を知り，関数についての理解を更に深める。 ・整関数（多項式関数）を対象に，微分法の基本的な概念を理解させる。 校外模擬試験で偏差値 60 以上が取れる習熟度を目指す。
目標達成のための留意点	・中学校数学との円滑な接続を図ること。 ・授業の復習を中心とした家庭学習を定着させるための「適切な課題と点検」を計画的・意図的に行うこと。 ・生徒の主体的な学習を促すため，AL 型授業の活用など生徒集団の資質に応じた授業展開を工夫すること。
教科書	「数学Ⅰ」(数研出版)，「数学Ⅱ」（数研出版）
副教材	「高校標準問題集　数学Ⅱ＋B」（数研出版） 数学Ⅰ・A基礎問題精講　例題定着ノート（数研出版）
評価方法	定期考査，小テスト，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
学習内容	［数学Ⅰ］ 第3章　いろいろな図形について，辺，角，面積，体積などの計量や面積比・体積比について学ぶ。 第4章　データ分析：統計の基本的な考え方を理解するとともに，それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。特に，データの散らばり，相関関係について学ぶ。 ［数学Ⅱ］ 第1章　式と証明：整式の除法，分数式の計算，等式・不等式の証明について学ぶ。 第2章　複素数と方程式：数の範囲を複素数まで拡張し，2 次方程式の判別式の意味や解と係数の関係について学ぶ。 第3章　図形と方程式：座標・方程式を用いて基本的な平面図形の性質や関係を考察する。特に，点と直線の距離，直線・円の位置関係や方程式，軌跡と領域について学ぶ。 第4章　三角関数：角の拡張により三角関数を定義し，関数についての理解を深める。また，三角関数の加法定理と，それから導かれる種々の定理について学ぶ。 第5章　指数関数・対数関数：指数の拡張により指数関数および対数関数を定義し，関数についての理解を深める。また，指数関数・対数関数を具体的な事象の考察に活用することを学ぶ。 第6章　微分と積分：「微分法」では微分係数・導関数の意味を理解し，接線の方程式や関数の値の変化の調べ方を学び，グラフの概形が描けるようにする。

2. 授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学Ⅰ	図形と計量（復習）					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	データの分析																																				
数学Ⅱ	式と証明																																				
	複素数と方程式																																				
	図形と方程式																																				
	三角関数																																				
	指数関数と対数関数																																				
	微分法																																				

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学 B	2	4年

1．学習の到達目標等

到達目標	下記学習内容を理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に， ・「ベクトル」の学習では，その演算の習得・習熟と図形問題への応用を理解することにより，他の単元との関連性・差異性・有用性に気づかせる。 ・「数列」の学習では，素朴な個数処理，規則性の発見からはじめ，より数学的な考察，論理性，表現力を伸ばす。 ・校外模擬模試で偏差値 60 以上が取れる習熟度を目指す。
目標達成のための留意点	「数学 A」と同様に，どの単元も，素朴な知識の活用から始めることができ，その活動をより主体的な学習に導くことで，数学的な考察・論理性・表現力の大切さに気づかせることができる。したがって，授業も，生徒が主体的に考え，活動できるように工夫する必要がある。
教科書	「数学B」（数研出版）
副教材	「高校標準問題集　数学Ⅱ＋B」（数研出版） 数学Ⅰ・A基礎問題精講　例題定着ノート（数研出版）
評価方法	定期考査，小テスト，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	第1章　数列 数列とその和，および漸化式と数学的帰納法について学ぶ。 第2・3章ベクトル 平面・空間上でのベクトルの意味，ベクトルの加法・減法・実数倍，ベクトルの成分や内積，位置ベクトル，図形のベクトル方程式について学び，基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて考察する。

2．授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学B	数列					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	平面ベクトル																																				
	空間ベクトル																																				
	既習分野の復習																																				

教科	科目	単位数	対象学年
英語	コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ	4	4年

1．学習の到達目標等

到達目標	多様な題材に触れ ・テキストを正確に理解し、それが前提としていることや背景にあることを推論する。 ・その内容について深く理解する。 ・題材をもとに、「聞く、読む、話す、書く」の４技能を有機的に関連付けつつ、総合的なコミュニケーション能力を養成する。
目標を達成するための留意点	・英語は継続して取り組むことで成果へとつながるので，課題も含め，毎日英語に触れるよう指導計画を作成する。 ・受験にも対応できる力を養成する。
使用教科書	（啓林館）Revised Element English Communication Ⅰ・Ⅱ
使用副教材	システム英単語（駿台文庫）　　リーディングパワー（数研出版）
評価基準	1. コミュニケーションへの関心、意欲、態度 2. 表現能力(Speaking, Writing) 3. 理解能力(Listening, Reading) 4. 言語や異文化についての知識、理解 上記の４つの観点と定期考査、課題提出、確認テスト、授業に参加する姿勢などを基にして総合的に評価する。
学習内容	・日常生活・学校生活、ネット情報社会、言語と民族、比較文化、平和や地球環境、国際協力、科学技術や芸術・音楽、社会貢献、歴史、人間としての生き方など多様な話題の文章を読み解き、内容に興味を持ち、考える。 ・スピーチ、インタビュー、プレゼンテーション、レポート、レクチャー、対話文、説明文、物語といった多様な種類の文章の特徴に注目し、それらの表現方法を学ぶ。 ・上記の題材を読んだり聞いたりして理解し、考えた内容を書いたり話したりして発信することによって、４技能を統合する。 ・大学受験に耐えうる長文読解力(速読、精読)を養う。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	内容	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4年	コミュ英語Ⅰ	Lesson 7	Biomietics																																				
		Lesson 8	The Power of Presentation																																				
		Communication Builder 2	4技能到達テスト																																				
		Lesson 9	Bospy					1学期中間考査					1学期期末考査									2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
		Lesson 10	playing the enemy																																				
	コミュ英語Ⅱ	Lesson 1	Beyond Words																																				
		Lesson 2	Stay Hungry, Stay Foolish																																				
		Lesson 3	A Teenager To Change the World																																				
		Lesson 4	Life in a Jar																																				
		Communication Builder 2	4技能到達テスト																																				
		Lesson 5	Space Debris																																				

教科	科目	単位数	対象学年
英語	英語表現Ⅰ	2	4年

1．学習の到達目標等

到達目標	・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する ・事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養うことを目指す ・英語によるコミュニケーション力の育成を目指して、生徒の英語による言語活動の機会を十分に設ける。コミュニケーションのできる英語を目標に会話だけにとどまらない４技能の基礎作りの場とする。
目標を達成するための留意点	・英語は継続して取り組むことで成果へとつながるので，課題も含め，毎日英語に触れるよう指導計画を作成する。 ・受験にも対応できる力を養成する。
使用教科書	啓林館　Revised Vision Quest　English Expression Ⅰ　Advanced
使用副教材	Vision Quest 総合英語（啓林館）、　Vision Quest WORK BOOK　（啓林館）
評価基準	1. コミュニケーションへの関心・意欲・態度 2. 表現能力（Speaking Writing） 3. 理解能力（Listening, Reading） 4. 言語や文化についての知識・理解 上記の 4 つの観点と定期考査、課題提出、確認テスト、授業に参加する姿勢などを基にして総合的に評価する。
学習内容	・中学の復習から入って徐々に発展的なものへと考慮し，無理なく英語の基礎力を養う。 ・巻末の Appendix を利用し、品詞，動詞の活用，短縮形，名詞の複数形，数詞，国名，発音記号などまで学ぶ。 ・練習問題を通じて問題への対応力から英作文までの応用力を身に付ける。 ・受験対策としての文法知識の習得のための時間の確保や課題の授与も行う。 ・各課の仕上げとして習った表現を使った口頭による会話練習やスピーチの練習までを行う。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4	英語表現Ⅰ	L.1 My name is Tanaka Kaito. Nice to meet you.	文の種類 相づちを打つ／聞き直す		■	■		1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		L.2 How did you get interested in Japan?	文型と動詞 言い換える／話題を変える			■	■																																
		L.3 I'm planning to go to Nagano this summer.	時制 評価する／予定する				■		■																														
		L.4 Have you ever seen a live soccer game?	完了形 原因･理由を調べる								■	■																											
		L.5 Can you help me with this plate?	助動詞 許可を求める／依頼する									■	■																										
		L.6 The Sapporo Lilac Festival will be held next week.	受動態 喜ぶ／驚く											■					■																				
		L.7 Thank you for coming to my birthday party.	不定詞 感謝する／謝罪する																	■	■																		
		L.8 How about going to a movie this afternoon?	動名詞 勧誘する／謝罪する																			■	■																
		L.9 Rules are for everyone's comfort and safety.	分詞 賛成する／反対する																						■	■													
		L.10 Things vary from culture to culture.	関係詞 説明する																								■	■											
		L.11 I believe everything has a positive side.	比較 意見を述べる／主張する																											■	■	■							
		L.12 I wish my father were more understanding.	仮定法 助言する／提案する																														■	■			■		

教科	科目	単位数	対象学年
理科	化学基礎	2	４年

１．学習の到達目標等

到達目標	１．化学が物質を対象とする学問であることや、人間生活に果たしている役割を理解する。 ２．原子の構造と電子配置を理解する。 ３．物質量を学び、化学反応の量的関係を理解する。 ４．酸と塩基の反応および酸化還元反応の基本的な概念や法則を理解できる。
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく，能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。
使用教科書	「化学基礎」（東京書籍） 「化学」（東京書籍）
使用副教材	「ニューグローバル　化学基礎」（東京書籍） 「ニューグローバル　化学」（東京書籍） 「フォトサイエンス　化学図録」（数研出版）
評価基準	＊関心・意欲・態度 ＊思考・判断・表現 ＊観察・実験 ＊知識・理解 　の４つの観点と定期考査，課題，授業への参加姿勢などを基に総合的に評価する。
学習内容	化学基礎 第２編：物質の変化 ２章：酸と塩基 ３章：酸化還元反応 化学 第１編：物質の状態と平衡 １章：物質の状態 ２章：気体の性質 ３章：溶液の性質 ４章：固体の構造

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
物質の変化	物質量と化学反応式			1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	酸と塩基	■	■															
	酸化還元反応				■		■											
物質の状態と平衡	物質の状態								■	■								
	気体の性質											■						
	溶液の性質													■	■			
	固体の構造															■		■

教科	科目	単位数	対象学年
理科	生物基礎	2	４年

１．学習の到達目標等

到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく，能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。
使用教科書	「生物基礎」（数研出版）
使用副教材	「リードα　生物基礎」（数研出版） 「フォトサイエンス　生物図録」（数研出版）
評価基準	行動観察，発言，発表，自己評価，レポート，ワークシート・小テスト・定期テストなど
学習内容	グループ型学習で授業を進め，教師の授業に加え生徒同士の教えあいにより生物の基礎知識の定着を行い，グループ全員が理解することを共通目標にした教えあいを通じてクラス全体で教えあう意識を高め，問題読解力の向上と理解の深化をはかる。

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
生物の特徴	生物の共通性と多様性	■	■	1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	細胞とエネルギー		■		■													
遺伝子とその働き	遺伝情報とDNA				■		■											
	遺伝情報の分配								■									
	遺伝情報とタンパク質の合成								■	■								
生物の体内環境の維持	体内環境と恒常性									■								
	体内環境の維持の仕組み											■						
	免疫											■						
生物の多様性と生態系	植生の多様性と分布													■	■			
	生態系とその保全														■	■		■

教科	科目	単位数	対象学年
理科	物理基礎	2	4年

1．学習の到達目標等

到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	学習のアドバイス等 1　日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。 2　疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 3　学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。
使用教科書	「物理基礎」（啓林館）
使用副教材	「センサー物理基礎」（啓林館）
評価基準	●下記の(1)～(5)の項目を，評価の観点別(関心・意欲・態度，思考・判断，観察・実験の技能・表現，知 識・理解)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み 授業に対する姿勢，学習態度，物理への関心等で判断する。評価の観点のうち，特に関心・意欲・態度の項目を評価する。 (2)ノートの記載内容 授業内容を適切にまとめているか，科学的な思考ができているかなどを評価する。 (3)観察・実験等 観察・実験等を行い，レポートを書く。観察・実験に対する姿勢，予想や考察，器具の操作，報告書などから評価する。評価の観点のうち，思考・判断，観察・実験の技能・表現に関する配分が大きい。 (4)教科書・問題集の問題 各問題への取り組み，取り組んだ内容から評価する。 (5)中間・定期考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち，思考・判断，知識・理解に関する配分がもっとも大きい。
学習内容	第２部「物理現象とエネルギー」: 様々な物理現象を観察，実験などを通して探究し，それらの基本的な概念や法則を理解し，物理現象とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につける。

2．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
物体の運動とエネルギー	物体の運動			1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	力と運動																	
	仕事とエネルギー																	
物理現象とエネルギー	熱とエネルギー																	
	波とエネルギー																	
	電気とエネルギー																	
	エネルギーとその利用																	

教科	科目	単位数	対象学年
地理歴史科	世界史Ａ	２	４

１．学習の到達目標等

到達目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ，現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
目標を達成するための留意点	世界の歴史の展開を，全時代にわたって均等に扱うのではなく，前近代を中心に扱う。年表，地図その他の資料の活用を通して世界の歴史の理解を図り，思考力・判断力・表現力等の育成を育んでいく。また世界の歴史の理解を踏まえて，現代の課題を政治・経済・社会・文化・生活・宗教など様々な観点から考察できる力を育んでいく。世界の構造や成り立ちを歴史的視野から考察し，自己の属する国や地域の理解の上に，国際社会で主体的に生き，平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質，態度を養う。
使用教科書	要説　世界史　改定版　（山川出版）
使用副教材	新　世界史Ａ要点ノート（啓隆社） 世界史　用語集　改訂版（山川出版） ニューステージ　世界史詳覧（浜島書店）
評価基準	社会事象への関心・意欲・態度／社会的な思考・判断・表現／資料活用の技能／社会的事象についての知識・理解　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して評価する。
学習内容	序章　古代文明の形成 第１章　諸地域世界の形成と交流 １　東アジア世界・内陸アジア世界　２　南アジア世界・東南アジア世界 ３　西アジア世界　４　ヨーロッパ世界 ５　諸文明を結ぶネットワーク 第２章　結びつく世界 １　アジアの諸帝国　２　近世ヨーロッパの形成と発展 第３章　ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 １　革命の時代の到来　２　自由主義と国民主義の進展 第４章　アジア諸国の変貌 １　オスマン帝国の動揺と民族の自覚　２　南アジア・東南アジアの植民地化 ３　東アジアの変容と日本の動向 第５章　世界戦争と平和 １　帝国主義の成立と列強の情勢　２　世界分割とアジア・アフリカ ３　二つの世界大戦とその影響 第６章　三つの世界の形成 １　冷戦期の世界と日本　２　アジア・アフリカ・ラテンアメリカの自立と課題 ３　米ソ両大国の動揺 第７章　グローバル化する世界 １　大国の動揺と国際経済の危機　２　社会主義の後退と冷戦の終結 ３　グローバル化と多様化　４　地域社会への歩み 主題学習　これからの世界に生きるために

２．指導計画

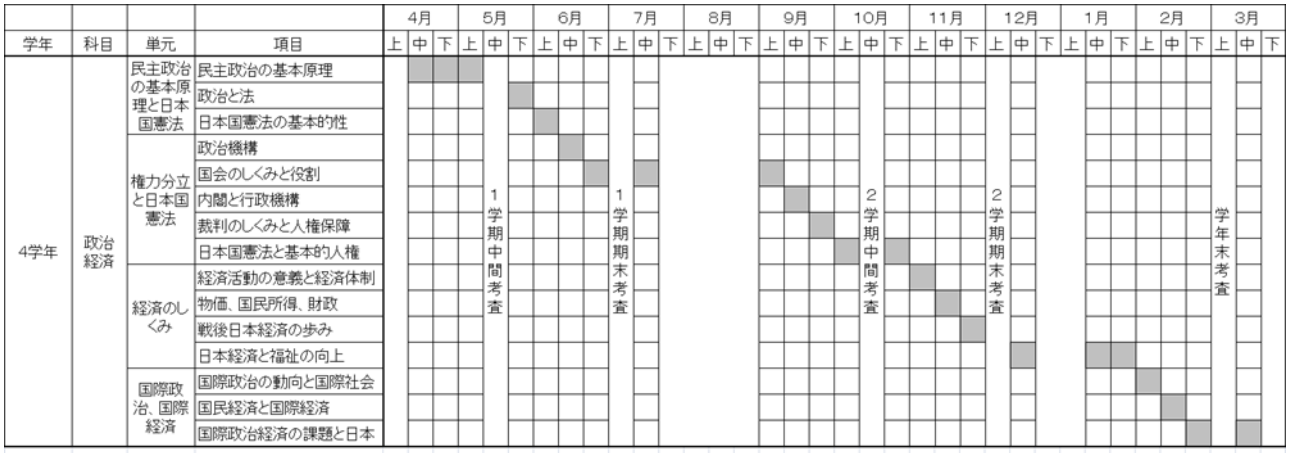
				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4	世界史A	序章	序章					1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
		第1章	第1章 1																																	
			第1章 2																																	
			第1章 3																																	
			第1章 4																																	
			第1章 5																																	
		第2章	第2章 1																																	
			第2章 2																																	
		第3章	第3章 1																																	
			第3章 2																																	
		第4章	第4章 1																																	
			第4章 2																																	
			第4章 3																																	
		第5章	第5章 1																																	
			第5章 2																																	
			第5章 3																																	
		第6章	第6章 1																																	
			第6章 2																																	
			第6章 3																																	
		第7章	第7章 1																																	
			第7章 2																																	
			第7章 3																																	
		主題学習	主題学習																																	

教科	科目	単位数	対象学年
公民	政治・経済	2	4年

1．学習の到達目標等

到達目標	1．政治に対する関心を高め，政治が社会に必要不可欠なものであることを認識させる手段として時事問題を取り上げ，生徒の関心を引き出す。2．「新しい人権」が登場する背景を学習し，憲法改正がなくても時代の変化に対応した人権保障が可能なことを認識させる。3．経済理解。
目標を達成するための留意点	知識理解と共に活用できるようにしたい。グループ学習などアクティブラーニングを通して、自分の意見が持てるようにしたい。
使用教科書	「政治・経済」（数研出版）
使用副教材	政治・経済演習ノート（数研出版），最新図説政経（浜島書店），政治経済用語集（山川出版）
評価基準	1．関心・意欲・態度（現代の社会事業や問題点に関心を持ち，意欲的に追究しようとしているか。）2．思考・判断（知識をもとに現代の社会問題を客観的に考察しようとしているか。）3．技能・表現（資料を収集，選択して自ら考え判断し行動できる基礎を持てるか。）
学習内容	【民主政治の基本原理と日本国憲法】 民主政治の基本原理／政治と法／日本国憲法の基本性 【権力分立と日本国憲法】 政治機構／国会のしくみと役割／内閣と行政機構／裁判のしくみと人権保障／日本国憲法と基本的人権 【経済のしくみ】 経済活動の意義と経済体制／物価、国民所得、財政／戦後日本経済の歩み／日本経済と福祉の向上 【国際政治・国際経済】 国際政治の動向と国際社会／国民経済と国際経済／国際政治経済の課題と日本

2．指導計画



教科	科目	単位数	対象学年
保健体育	体育	2	4年

1．学習の到達目標等

到達目標	運動の合理的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
目標を達成するための留意点	運動に関する領域は体つくり運動、器械運動、陸上競技、球技、武道及びダンスであり、知識に関する領域は体育理論で行う。
使用教科書	現代保健体育（大修館）
使用副教材	最新スポーツルール（大修館）
評価基準	実技テスト、定期考査、プリントの記述、授業に参加する姿勢などをもとにして総合的に判断する。
学習内容	男子 集団行動、体つくり運動、新体力テスト、陸上競技、ソフトボール、バレーボール、柔道、バトミントン、テニス、バスケットボール、サッカー 女子 集団行動、体つくり運動、新体力テスト、陸上競技、バトミントン、バレーボール、テニス、ソフトボール、サッカー、バスケットボール 体育理論　社会の変化とスポーツ

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4	体育	集団行動						1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		体つくり運動																																					
		新体力テスト																																					
		陸上																																					
		武道																																					
		球技																																					

教科	科目	単位数	対象学年
保健体育	保健	1	４年

１．学習の到達目標等

到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。
目標を達成するための留意点	健康の保持増進と疾病の予防では喫煙と飲酒、薬物乱用については、疾病との関連、社会との影響などについて総合的に取り扱う。 疾病との関連、社会への影響について総合的に取り扱う。
使用教科書	現代保健体育（大修館）
使用副教材	
評価基準	定期考査、プリントの記述、授業に参加する姿勢などをもとにして総合的に判断する。
学習内容	現代社会と健康 （私たちの健康のすがた～日常的な応急手当）

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4	保健	現代社会と健康	私たちの健康のすがた		■	■		1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
			健康のとらえ方				■		■																														
			健康と意思決定・行動選択							■	■																												
			健康に関する環境づくり									■		■																									
			生活習慣病とその予防																■	■																			
			食事と健康																		■	■																	
			運動と健康																						■	■													
			休養・睡眠と健康																								■	■												
			喫煙と健康																										■			■								
			飲酒と健康																														■	■						
			薬物乱用と健康																																■	■				
			現代の感染症																																			■	

教科	科目	単位数	対象学年
情報	社会と情報	1	4 年

１．学習の到達目標等

到達目標	１．情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる。 ２．情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して，情報を収集，処理，表現させる。 ３．効果的にコミュニケーションを行う能力を養い，情報社会に積極的に参画する態度を育てる。
目標を達成するための留意点	・基本技能の修得だけでなく、情報社会における個人のモラルについても留意させる。 ・身近なコミュニケーションツールの例など挙げて理解を促す。
使用教科書	高校社会と情報（実教出版）
使用副教材	必要に応じて配布する
評価基準	年 3 回の定期考査で 50%、実技 40%、平常点、提出物
学習内容	・コンピュータ教室でのマナーを理解する。" ・情報や情報社会についての意味を理解する。 ・インターネットの特質と個人の責任，心構えなどについて学ぶ。 ・コンピュータを利用した犯罪と，被害者にならないための心構えを学ぶ。 ・メディアの特徴と，メディアリテラシーについて学ぶ。 ・メディアを効果的に取り扱うための能力を身に付ける。 ・情報の特性や相手の状況を考慮したメディアの選択について考える。 ・個人情報とその保護などについて調べる。 ・プロトコルやファイル形式について理解を深める。 ・IP アドレス，ドメイン名について学ぶ。 ・Web ページの閲覧の仕組みについて学ぶ。 ・電子メールの送受信の仕組みについて学ぶ。 ・電子メールや Web，リアルタイムのコミュニケーションについて学ぶ。 ・情報システムの例について学ぶ。

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4	社会と情報	文章処理	文章作成ソフトの利用		■	■	■	1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		情報社会	②情報社会						■																														
			③情報社会の個人							■																													
			③情報とメディア								■																												
		情報機器とディジタル機器	ディジタル表現									■		■					■																				
		表現と伝達	表計算ソフトの利用																	■																			
		コミュニケーションとネットワーク	コミュニケーション																		■																		
			ネットワーク																			■	■																
		表現と伝達	①プレゼンテーション																							■													
		法規とセキュリティー	情報の管理・保護に関する法律																								■												
			情報セキュリティー																																				
		情報社会と問題解決	情報システムと人間																									■				■	■						
			問題解決																															■	■	■		■	

教科	科目	単位数	対象学年
芸術	美術Ⅰ	2	４年

１．学習の到達目標等

到達目標	美術の創造活動を通じて、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
目標を達成するための留意点	＊ 学 習 上 の 注 意 ・ 助 言 ・提出物の提出期限は必ずまもる。 ・準備や後片付けをきちんとやる。（忘れ物をしない） ・表現材料や用具・作品を大切にし、丁寧に扱う。　・自分の作品を大切にし、ねばり強く、集中して制作に取り組む。 ・計画的に作業し、予定どおりに作品を完成できるように努力する。 ・作品を早く仕上げることよりも、強い追求心をもち、 最後まで試行錯誤しながら工夫し、困難を乗り越え創り上げることを大事にしたい。
使用教科書	美術１（光村図書出版）
使用副教材	プリント教材
評価基準	① 美術への関心・意欲・態度 ：美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。→ 課題への取り組み方・発表・学習態度・作品・準備物・提出物などで評価します。 ② 発想や構想の能力 ：感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。→ 作品・定期テストなどで評価します。 ③ 創造的な技能 ：感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身につけ、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。 → 作品・定期テストなどで評価します。 ④ 鑑賞の能力 ：感性や想像力を働かせて、美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりしている。→ 授業プリント・レポート・定期テストなどで評価します。
学習内容	１　油彩技法の習得。 ２　色彩学を学び配色構成で自己表現できる。 ３　自ら課題に適した表現方法を模索し、意欲を持って制作に取り組むことができるようになる。 ４　美術作品や文化遺産などに親しみ、感性や想像力を働かせてよさや美しさを感じられるようになる。

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4年	美術	オリエンテーション 鑑賞	人間が長い歴史の中で「美」を追い求めた理由を考える。 美術表現の多様な展開に興味・関心を高める。					1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査						2学期期末考査										学年末考査		
		静物画を描く（油彩）	静物画を通して油彩の基礎技法を身に付ける。技法だけでなく静物を観察する自分を意識し、表現につなげていく。																																				
		ポックスアート （アイデア）	箱の奥行きを生かし、自分だけの別世界を創造する。																																				
		ポックスアート （制作）	演劇の舞台デザインのような感覚で制作のイメージにあった空間になるように材料、配置などを工夫する。																																				
		ポックスアート （鑑賞）																																					
		自由制作	これまでの美術の体験を生かして平面・立体など、時間をかけて自由に作品制作をする。																																				
		自由制作	一年を思い返し、自分の感覚に合った表現方法や作家作品について考えをまとめる。																																				

教科	科目	単位数	対象学年
芸術	音楽Ⅰ	2	４年

１．学習の到達目標等

到達目標	○調性音楽の理論の理解と利用　○日本語のアクセントを利用した作曲表現 ○メンバーの志向等を共有・共感しながら演奏曲目の選定と担当楽器の設定を行う ○各楽器の基本奏法の理解と演奏。コード・ネームに関連した楽典の理解と参考資料の作成 ○各楽器に関連した機材等の効果および操作理解 ○個人練習・合奏練習のメニュー理解と稽古実施 ○声楽的観点による表現の工夫　○弾き歌いを中心にした楽曲の解釈とコピー、カヴァー、オリジナルの概念理解　○音楽における歴史と様々な様式の理解 ○クロスオーバーの概念理解および応用　○総合芸術の理解
目標を達成するための留意点	［あらかじめ要求される基礎知識の範囲］　小・中学校で培われた音楽的演奏能力および音楽的知識一般。ただし楽器演奏の基本能力は特に問わない。 ［注意事項］　この授業は主体的な音楽表現を試みる事を目的としている。初めて演奏する事になる楽器などもあると思われるが、指定された課題を丁寧に練習していくことにより、音楽的表現の可能性を実体験し追求して欲しい。
使用教科書	ＭＯＵＳＡ　Ⅰ（教育芸術社）
使用副教材	各グループ単位の任意の楽譜　　資料プリント等
評価基準	［単位修得要件］　出席日数、授業参加練習態度、持ち物（楽譜など）、順番で行うレッスン等の評価、学期ごとの学科（筆記）試験、同学年末の演奏実演。以上を加味しながら実技 60%、理論 40%にて評価を決定する。
学習内容	主に作曲理論の学習とバンド編成による楽曲の演奏活動を通して、音楽的感性を深め、演奏の基本手法を実習すると共に、主体的かつ創造的な芸術的表現を行う。 1 学期　音楽理論と実習　基本奏法の練習 2 学期　基本奏法の練習と合奏・声楽パートの練習及び弾き歌い。歌曲創作 3 学期　クラシック、ジャズ、民族音楽などの特徴と様式。音楽史（日本音楽史を含む）。 合奏表現とパフォーマンス・授業内試演（ライブ）

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4年	音楽Ⅰ	音楽理論と作曲	調性音楽の理論概説		■	■	■	1学期中間試験	■	■	■	■	1学期期末試験	■					■	■	■	■	2学期中間試験	■	■	■	■	2学期期末試験									学年末試験		
			日本語歌詞を使用した作曲実習																					■	■	■	■		■		■	■	■	■	■	■		■	
		合奏準備	メンバー編成、担当楽器設定、演奏曲目選定		■	■	■																																
			各楽器などの取り扱い説明		■	■	■																																
		基本奏法	コード・ネーム及びタブラチュア譜とコード・ダイアグラムの認識			■	■		■	■	■	■		■					■																				
			ドラムスのストロークと基本ビート			■	■		■	■	■	■		■					■																				
			ギター、ベースにおけるロー・ポジションのコード・フォームとそれらのポジション連結			■	■		■	■	■	■		■					■																				
			キーボードにおけるコード・フォームおよび和音の基本形と転回形			■	■		■	■	■	■		■					■																				
			ドラムにおけるリズム・パターンの変更とフィル・イン				■		■	■	■	■		■					■																				
		基本奏法の発展と合奏	ギターにおけるロー・ポジション のコードを使用したアルペジオと弾き歌い									■		■					■	■	■	■																	
			パワー・コードと音色																■	■	■	■																	
			ベースにおけるドラムパートとの協調																■	■	■	■																	
			コード・ルート以外の使用（和音の転回型）および弾き歌い																	■	■	■		■															
			キーボードにおける音色設定に関する考察および弾き歌い																	■	■	■		■															
			和音の密集配置と解離配置　アルペジオ																	■	■	■		■															
			ドラムにおける基本リズム変形応用　ルーディメントの考察																	■	■	■		■															
			合奏時の機材使用法と留意点																■	■	■																		
			合奏練習																	■	■	■		■	■	■	■		■		■	■	■	■	■			■	
		声楽パートの練習及び弾き歌い	発声																		■	■		■	■	■	■		■										
			声楽パートの練習と表現																					■	■	■	■		■		■	■	■	■	■			■	
		様々な様式	クラシック、ジャズ、民族音楽など の歴史と特徴。日本音楽史																										■		■	■	■						
		合奏表現とパフォーマンス	演奏プランの確定																														■	■	■				
			舞台芸術としての観点とその理解																														■	■	■				
			授業内試演（ライブ）																																■			■	

教科	科目	単位数	対象学年
芸術	書道Ⅰ	2	4年

1．学習の到達目標等

到達目標	・　書写と書道の違いを理解する。 ・　書く姿勢、筆の持ち方、用具・用材についての知識を理解する。 ・　漢字の書体、楷書の成立と基本用筆について理解する。 ・　様々な作品を鑑賞する。臨書を通し、字形や運筆の特徴を理解する。 （背勢と向勢・蔵鋒と露鋒・方勢と円勢の違い等） ・　行書の成立と基本用筆について理解し、楷書との違いを理解し、表現する。 ・　平仮名、片仮名の成り立ちを理解する。 ・　仮名の成立と基本用筆・連綿の流動美を理解し、表現する。 ・　生活で必要な実用書道の基礎・基本的な事項を理解し、文字の原則・原理に基づいて書くことができる。
目標を達成するための留意点	用具・用材の特徴を理解し、適切に扱わせる。 表現形式に応じて、全体の構成を工夫させる。 目的や用途に即した形式や意図に基づく表現を工夫させる。
使用教科書	書道Ⅰ（東京書籍　）
使用副教材	資料・配布プリント等
評価基準	毎時間の作品提出、習熟度、出席日数、授業態度、持ち物（教科書と道具）、学期末の学科試験を加味して実技 60%　理論 40%にて総合的に評価決定する。
学習内容	・　書写と書道の違いを理解する。姿勢・執筆法、用具・用材を理解する。 ・　書の歴史を知る。 ・　中国の歴史的作品の鑑賞・理論を通し、臨書（実技）をする。 ・　楷書の学習 ・　行書の学習 ・　平仮名、片仮名の成り立ちを理解し、平安時代の仮名の基礎を学ぶ。 ・　いろは歌・連綿 ・　日常生活における実用的な書を学ぶ。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4年	書道Ⅰ	楷書	九成宮禮泉銘					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験		
			孔子廟堂碑																																				
			雁塔聖教序																																				
		行書	蘭亭序																																				
			争坐位稿																																				
			風信帖																																				
		仮名	いろは歌・連綿																																				
		硬筆	硬筆																																				
		調和体	生活の中の書																																				